



TITLE:

高等教育研究開発推進センター日誌・組織・教員業績(2009年4月～2010年3月)

AUTHOR(S):

CITATION:

高等教育研究開発推進センター日誌・組織・教員業績(2009年4月～2010年3月). 京都大学高等教育研究 2010, 16: 187-221

ISSUE DATE:

2010-12-01

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/137188>

RIGHT:

高等教育研究開発推進センター日誌

(2009 年 4 月 1 日～2010 年 3 月 31 日)

年 月 日	記 事
4.15	高等教育研究開発推進センター運営委員会（平成 21 年度第 1 回）
4.19	助教 酒井晃二 国際磁気共鳴医学会（ISMRM2009）発表、情報収集のためアメリカへ海外出張（4.24 帰国）
4.22	教授 小山田耕二 IEEE Pacific Visualization Symposium 2009 に出席し発表、座長を務める。可視化技術情報収集のため中国へ海外出張（4.24 帰国）
4.25	<p>関西地区 FD 連絡協議会 2009 年度総会 場所：百周年時計台記念館 開会挨拶：山成 数明（大阪大学教授） 議事：</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 平成 20 年度活動報告について 2. 平成 21 年度活動方針について 3. 平成 20 年度決算について 4. 平成 21 年度予算について 5. その他 <p>活動事例報告：</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 「書くことの指導と評価」 <ul style="list-style-type: none"> ◆「関西大学工学部の場合」 池田 勝彦（関西大学教授） ◆「シンポジウムの論点のまとめ」 河崎 美保（高等教育研究開発推進センター特定助教） 2. 「組織的 FD ポートフォリオを活用したピアレビュー活動の提案」 酒井 博之（高等教育研究開発推進センター特定准教授） 3. 「携帯電話による授業評価・出欠確認システムの活用について」 福永 栄一（大阪成蹊大学准教授） <p>閉会挨拶：田中 每実（高等教育研究開発推進センター教授） 情報交換会</p>
5. 6	<p>センター研究会 デヴィッド・ボーム氏（FSED FHEA, England） “Teaching in Higher Education and Academic Development Considered as Professions”</p>
5.20	高等教育研究開発推進センター運営委員会（平成 21 年度第 2 回）

6. 9 平成 21 年度科学研究費補助金・基盤研究 (B) 新規
「ポスト近代社会における〈新しい能力〉概念とその形成・評価に関する研究」
研究代表者：松下 佳代 高等教育研究開発推進センター教授
研究分担者：石井 英真 神戸松蔭女子学院大学人間科学部講師
伊藤実歩子 甲南女子大学人間科学部准教授
遠藤 貴広 福井大学教育地域科学部講師
杉原 真晃 山形大学高等教育研究企画センター准教授
樋口 太郎 大阪経済大学経済学部講師
樋口とみ子 京都教育大学教育学部講師
松下 良平 金沢大学人間社会研究域学校教育系教授
6. 9 平成 21 年度科学研究費補助金・基盤研究 (B) 新規
「粒子ボリュームレンダリング技術を使った遠隔協調研究支援環境の構築」
研究代表者：小山田耕二 高等教育研究開発推進センター教授
坂本 尚久 高等教育研究開発推進センター特定助教
伊達 進 大阪大学サイバーメディアセンター准教授
江原 康生 大阪大学情報基盤推進本部講師
6. 9 平成 21 年度科学研究費補助金・基盤研究 (C) 継続
「英語学術論文作成のための自律学習支援システムの構築—ESP 語彙リストに基づいて—」
研究代表者：田地野 彰 高等教育研究開発推進センター教授
研究分担者：寺内 一 高千穂大学商学部教授
金丸 敏幸 大学院人間・環境学研究科助教
6. 9 平成 21 年度科学研究費補助金・基盤研究 (C) 新規
「肩甲帯に着目した上肢運動のバイオメカニクス」
研究代表者：小田 伸午 高等教育研究開発推進センター教授
6. 9 平成 21 年度科学研究費補助金・基盤研究 (C) 継続
「江戸末期に日本に伝わった中国伝統演劇に関する基礎的研究」
研究代表者：赤松 紀彦 高等教育研究開発推進センター教授
6. 9 平成 21 年度科学研究費補助金・若手研究 (スタートアップ) 継続
「韓国における才能教育に関する研究—高校早期卒業および大学早期入学制度を中心に—」
研究代表者：石川 裕之 高等教育研究開発推進センター特定助教
6. 9 平成 21 年度科学研究費補助金・若手研究 (B) 継続
「ICT を活用した大学教員のための授業改善システムに関する研究」
研究代表者：酒井 博之 高等教育研究開発推進センター特定准教授
6. 9 平成 21 年度科学研究費補助金・若手研究 (B) 継続
「認知行動的介入による気晴らしの接近的活用に関する臨床健康心理学的研究」
研究代表者：及川 恵 高等教育研究開発推進センター特定准教授

- 6.17 高等教育研究開発推進センター運営委員会 (平成 21 年度第 3 回)
- 6.20 学振特別研究員 進矢 正宏 学会参加 (ISPGR 2009) のためイタリアへ海外出張 (6.27 帰国)
- 6.26 センター研究会 マシュー・ワーレット氏 (University of Massachusetts Amherst, USA) “Faculty Development in the U.S.: Universities and the Role of the POD Network in Higher Education”
- 7.15 文学研究科プレ FD プロジェクト 2009 年度前期公開研修会
 開会挨拶：田中 每実 高等教育研究開発推進センター教授/FD 研究検討委員会委員長
 司 会：田口 真奈 高等教育研究開発推進センター准教授
 アイスブレーキング
 リフレクション映像視聴
 個人ワーク
 個人ワーク発表
 松下 佳代 (高等教育研究開発推進センター教授)
 ディスカッションテーマの設定
 グループディスカッション
 グループディスカッション発表
 全体ディスカッション
 閉会式
 修了証授与：田中 每実 高等教育研究開発推進センター教授/FD 研究検討委員会委員長
 閉 会 挨 拶：亭阪 直行 文学研究科教授
 情報交換会
- 7.18 ～ 19 若手 FD 研究者ネットワーク (JFDN Jr.) 第 2 回合宿研究会
- 7.21 准教授 Stewart Timothy William カルガリー大学・Simon Fraser 大学図書館にて資料収集、調査、及び複数の共同研究打合せためカナダへ海外出張 (8.21 帰国)
- 7.25～26 大学生研究フォーラム 2009
 共催：高等教育研究開発推進センター・財団法人電通育英会
 挨 拶 田中 每実 京都大学高等教育研究開発推進センター教授
 松本 宏 財団法人電通育英会理事長
 趣旨説明と継承問題 溝上 慎一 京都大学高等教育研究開発推進センター准教授
 パネルディスカッション第 1 部
 「学生の何が育っていて、何が育っていないのか？—ボランティア・インターンシップ・大学教育改善—」
 司 会 溝上 慎一 京都大学高等教育研究開発推進センター准教授
 パネリスト 加藤 敏明 立命館大学 共通教育推進機構キャリア教育センター教授・センター長
 岩井 雪乃 平山郁夫記念ボランティアセンター助教
 土持ゲーリー法一 弘前大学 21 世紀教育センター教授・副センター長

講演会

講演1「プロフェッショナル志向を認め始めた日本企業の雇用システム—大学はこれにどう関わるか—」

谷内 篤博 文京学院大学人間学部教授

「『学びの身体性』に学ぶ—『江戸』の視点による現代教育の相対化—」

渡邊三枝子 筑波大学特任教授・キャリア支援室長

「青年期論から見た大学生の成長—何が課題か—」

白井 利明 大阪教育大学教育学部教授

「教科と連携をとって推進される総合的なキャリア教育を目指して」

辻本 雅史 大学院教育学研究科教授

講演会

講演2「キャリア教育と言わない大学生のキャリア教育—正規教育とキャリア教育の架橋—」

浦坂 純子 同志社大学社会学部准教授

「大学生に本当に必要なキャリア教育とは何か—2007～2008年縦断調査にみる現代大学生の就職活動—」

下村 英雄 独立行政法人労働政策研究・研修機構

基調講演

「学部学生の間にキャリアについて内省、展望すべきこと—自分の中に問うべきことと、広い世界に問うべきこと—」

金井 壽宏 神戸大学大学院経営学研究科教授

パネルディスカッション第2部

「学生の『学ぶ』を育む—経験知と専門知との往復による融合—」

司 会 加藤 敏明 立命館大学共通教育推進機構キャリア教育センター教授・センター長)

パネリスト 中村 陽一 立教大学大学院21世紀社会デザイン研究科教授

川上 正浩 大阪樟蔭女子大学心理学部准教授

高橋 進 長野大学企業情報学部教授・学部長

8. 4 大学院生のための教育実践講座 2009—大学でどう教えるか—

主催：京都大学FD研究検討委員会

協力：高等教育研究開発推進センター

場所：京都大学百周年時計台記念館

開会式

挨拶 西村 周三 京都大学理事

趣旨とプログラムの説明 平出 敦 医学教育推進センター長

【Basic】

セッション1 グループ討論1：（自己紹介）「大学授業をどう思うか」

セッション2 ミニ講義1：「大学授業の現在」

大塚 雄作 高等教育研究開発推進センター教授

セッション3 ランチと自由討論

セッション4 グループ討論2：「大学授業で教師に求められるもの」

セッション5 ボディーワーク：「他者とのつながり・自分とのつながり」

村川 治彦 京都文教大学教授

セッション 6 ミニ講義 2: 「大学授業の課題」

酒井 博之 高等教育研究開発推進センター准教授

セッション 7 全体討論: 「大学で教えるために」

セッション 8 ミニ講義 3: 「大学で教えるために」

田中 每実 高等教育研究開発推進センター長

【Advanced】

セッション 1 全体討論: (自己紹介) 「教える側からみた大学授業」

セッション 2 ランチと自由討論

セッション 3 模擬公開授業・検討会

セッション 4 グループ討論: (コースデザイン、授業技術、評価など)

セッション 5 全体討論

閉会式

挨拶・修了証授与 西村 周三 京都大学理事

閉会式終了後 情報交換会

- 8. 7 センター研究会 飯吉 透氏 (Office of Educational Innovation and Technology, MIT, USA)
- 8.19 准教授 溝上 慎一 XIV European Conference on Developmental Psychology に参加及び研究発表のためリトアニア共和国へ海外出張 (8.24 帰国)
- 8.25 助教 酒井晃二 IBMISPS2009 参加及び情報収集、Prof. ススム・モリと研究打合せのためアメリカへ海外出張 (9.3 帰国)
- 8.25 センター研究会 サイド・ペイバンディー氏 (ESSI-CRES, University of ParisVIII, France) “学生と社会学と学生のメチエ”
- 9. 2 若手研究者によるサイエンス・コミュニケーター派遣プロジェクト・事前研修
- 9. 4 教授 赤松 紀彦 中国伝統演劇関係資料収集及び中国語 CALL 教材コンテンツ収集のため中国へ海外出張 (9.13 帰国)
- 9. 9～10 FD ネットワーク代表者会議 (JFDN) 2009 年度会合
- 9.16 高等教育研究開発推進センター運営委員会 (平成 21 年度第 4 回)
- 9.25 講演・パネルディスカッション「学士課程における科学教育の未来」
 開会挨拶: 松本 紘 京都大学総長
 第 1 部講演: カール・E・ワイマン ブリティッシュコロンビア大学カール・ワイマン科学教育イニシアティブ教授
 司会: 大塚 雄作 高等教育研究開発推進センター教授
 第 2 部パネルディスカッション
 パネリスト: カール・E・ワイマン
 坂東 昌子 元日本物理学会会長、愛知大学名誉教授、NPO 知的人材ネットワークあいんしゅたいん理事長
 笹尾 登 大学院理学研究科教授、岡山大学教育研究プログラム戦略本部極限量子研究コア教授
 指定討論: 松下 佳代 高等教育研究開発推進センター教授
 田中耕一郎 物質-細胞統合システム拠点教授
 閉会挨拶: 田中 每実 高等教育研究開発推進センター教授

10. 5 平成 21 年度科学研究費補助金・若手研究（スタートアップ）新規
「算数の複数解法の協調的吟味に関する実証的研究」
研究代表者：河崎 美保 高等教育研究開発推進センター特定助教
- 10.13 教授 小山田耕二 IEEE Visualization Conference09 参加・情報収集ためアメリカへ海外出張（10.18 帰国）
- 10.14 高等教育研究開発推進センター運営委員会（平成 21 年度第 5 回）
- 10.21 ISSOTL Conference 2009 参加・研究発表
参加者：大塚 雄作教授、松下 佳代教授、酒井 博之特定准教授、
半澤 礼之特定助教（10.27 帰国）
- 11.13 若手研究者によるサイエンス・コミュニケーター派遣プロジェクト・報告会
- 11.13 特定助教 坂本 尚久 Super Computing (SC) 2009 に参加、情報収集のためアメリカへ海外出張（11.21 帰国）
- 11.15 教授 小山田耕二 Super Computing (SC) 2009 に参加、情報収集のためアメリカへ海外出張（11.29 帰国）
- 11.15 第 80 回公開研究会
題 目：学生の声から探る教育改善の課題—工学部の授業アンケート・学生調査を通して—
開会挨拶：米谷 淳 神戸大学教育推進機構教授、関西 FD 連絡協議会 研究 WG 主査
報 告 者：大塚 雄作 高等教育研究開発推進センター教授
及川 恵 高等教育研究開発推進センター特定准教授
田中 利幸 大学院情報学研究科教授、工学部新工学教育プログラム実施
専門委員会委員長
松本和一郎 龍谷大学理工学部教授、関西地区 FD 連絡協議会 研究 WG 委員
高野 明 東京大学学生相談ネットワーク本部・学生相談所講師
山田 礼子 同志社大学教育開発センター所長
閉会挨拶：田中 每実 高等教育研究開発推進センター長
- 11.21 特定助教 石川 裕之 韓国国会図書館、韓国大学協議会、梨花女子大学、ソウル市立大学にて研究課題に関する資料収集、専門家との面談のため大韓民国へ海外出張（11.25 帰国）
- 11.27 高等教育研究開発推進センター運営委員会（平成 21 年度第 6 回）
- 11.28 教授 赤松 紀彦 ICT を活用した日中間授業交流のための意見交換及び情報収集のため中国へ海外出張（12.1 帰国）
12. 4 工学部主催「第 5 回工学部教育シンポジウム」
開会挨拶：大塚幸一郎 工学部長
調査報告：及川 恵 高等教育研究開発推進センター特定准教授
1. 私の授業—アンケート結果を受けて—
川崎 雅史 地球工学科教授
上村 宏二 建築学科教授

	<p>木村 健二 物理工学科教授 川上 養一 電気電子工学科教授 船越 満明 情報学科教授 長谷部伸治 工業化学科教授</p> <p>2. 総括</p> <p>田中 利幸 工学部新工学教育プログラム実施専門委員会委員長 ディスカッション</p>
12.7	<p>FD 研究検討委員会公開授業・検討会</p> <p>授業担当：田口 真奈 高等教育研究開発推進センター准教授 授業科目：全学共通教育科目 A 群「ライフサイクルと教育 B」</p>
12.9	<p>高等教育研究開発推進センター協議員会（平成 21 年度第 1 回）</p>
2010.1.11	<p>ハワイ大学客員教授ダン・ランディス 講義、研究打合せ、討論などのため来日（1.19 帰国）</p>
1.12	<p>FD 研究検討委員会公開授業・検討会</p> <p>授業担当：平出 敦 大学院医学研究科教授 授業科目：医学部専門科目「診断治療学総論」</p>
1.20	<p>文学研究科プレ FD プロジェクト 2009 年度後期公開研修会</p> <p>開会挨拶：田中 每実 高等教育研究開発推進センター教授/FD 研究検討委員会委員長 司 会：田口 真奈 高等教育研究開発推進センター准教授</p> <p>アイスブレイキング リフレクション映像視聴 個人ワーク 個人ワーク発表</p> <p>松下 佳代 高等教育研究開発推進センター教授 ディスカッションテーマの設定 グループディスカッション グループディスカッション発表 全体ディスカッション</p> <p>閉会式 修了証授与：田中 每実 FD 研究検討委員会委員長 閉 会 挨 拶：苧阪 直行 文学研究科長 情報交換会</p>
2. 6	<p>大学生キャリアセミナー 2009 京都</p> <p>講演：「就職しても力強く学び続けるための大学生活の過ごし方」 浦坂 純子 同志社大学社会学部准教授</p> <p>4～5 人でのグループワーク 次回に向けての個人のまとめ 交流懇親会</p>

2. 6	クイーンズランド大学上級講師グロリア・ダルアルバ 「高等教育における実践に関連した学術的理論や思想について」の講演、会議のため来校 (2.13 帰国)
2.19	高等教育研究開発推進センター協議員会 (平成 21 年度第 2 回)
2.19	特定助教 石川 裕之 British Library、ロンドン大学、ケンブリッジ大学図書館、エディンバラ大学等にてイギリスの高等教育に関する資料収集等のためイギリスへ海外出張 (3.1 帰国)
2.20	教授 松下 佳代 Bifie zentrum salzburg、ウィーン大学、ウィーン市内公立学校、ウィーン教育委員会にて教育スタンダード及び高等教育に関するインタビュー等のためオーストリアへ海外出張 (2.27 帰国)
2.22	特定准教授 及川 恵 ケンブリッジ大学、エディンバラ大学等にて予防プログラムに関する資料収集等のためイギリスへ海外出張 (3.1 帰国)
2.23	高等教育研究開発推進センター運営委員会 (平成 21 年度第 7 回)
3.1	特定助教 坂本 尚久 PacificVis2010 参加、発表、可視化技術情報収集のため中国へ海外出張 (3.5 帰国)
3. 3	教授 小山田耕二 PacificVis2010 参加、可視化技術情報収集のため台湾へ海外出張 (3.5 帰国)
3.17	MOST 講習会 趣旨説明、MOST・KEEP Toolkit の概要説明 酒井 博之 高等教育研究開発推進センター特定准教授 スナップショットの作成事例紹介 平山 朋子 藍野大学医療保健学部理学療法学科准教授 MOST 操作説明 参加者によるスナップショットの作成
3.18～19	第 16 回大学教育研究フォーラム (特別教育研究「大学教員教育研修のためのモデル拠点形成」の一環) 開会の挨拶 松本 紘 京都大学総長 特別講演 「大学教育の実践知を共有する—コミュニティ・ネットワーク・コモンズ—」 松下 佳代 高等教育研究開発推進センター教授 シンポジウム「教える集団をどう組織するか」 報告者 柳澤 康信 愛媛大学学長 南木 睦彦 流通科学大学商学部教授・教育高度化推進センター長 根津知佳子 三重大学教育学部教授 義本 博司 文部科学省高等教育局高等教育企画課長 全体討論 司 会：田中 每実 京都大学高等教育研究開発推進センター教授 溝上 慎一 京都大学高等教育研究開発推進センター准教授

小講演 1

中井 俊樹 名古屋大学高等教育研究センター准教授
 冬木 正彦 関西大学環境都市工学部教授
 金丸 敏幸 京都大学大学院人間・環境学研究科助教
 田地野 彰 京都大学高等教育研究開発推進センター教授
 田口 真奈 京都大学高等教育研究開発推進センター准教授
 出口 康夫 京都大学大学院文学研究科准教授
 赤嶺 宏介 京都大学大学院文学研究科教務補佐員

小講演 2

高橋 哲也 大阪府立大学総合教育研究機構教授・学生センター副センター長
 福留 東土 広島大学高等教育研究開発センター准教授
 高野 明 東京大学学生相談ネットワーク本部学生相談所講師
 山本 淳司 京都大学教育推進部共通教育推進課長

ラウンドテーブル企画 (8 件)

個人研究発表 10 部会 68 件

個人発表

教育評価研究部会 (1)
 カリキュラム研究部会 (1) (2)
 授業研究部会 (1) (2) (3) (4) (5)
 FD・授業公開研究部会 (1) (2) (3) (4) (5)
 e-Learning・遠隔教育研究部会 (1) (2)
 大学生・大学生生活研究部会 (1) (2)

参加人数 555 名

- 3.21 教授 赤松 紀彦 江戸末期に日本に伝わった中国伝統演劇に関する資料収集と意見交換のため中国へ海外出張 (3.28 帰国)
- 3.25 高等教育研究開発推進センター運営委員会 (平成 21 年度第 8 回)

高等教育研究開発推進センター組織

(2009 年 4 月 1 日～2010 年 3 月 31 日)

高等教育研究開発推進センター協議員：

田中 毎実	センター長		
松下 佳代	センター教授	大塚 雄作	センター教授
吉田 純	センター教授	小田 伸午	センター教授
赤松 紀彦	センター教授	田地野 彰	センター教授
小山田耕二	センター教授		
山本 行男	高等教育研究開発推進機構長、センター教授		
八尾 誠	高等教育研究開発推進機構、副機構長・理学研究科教授		
辻本 雅史	高等教育研究開発推進機構、副機構長・教育学研究科教授 (6 月～)		
堀 智孝	大学院人間・環境学研究科長		
吉川 研一	大学院理学研究科長		
伊藤 邦武	大学院文学研究科教授		
矢野 智司	大学院教育学研究科長、教授		
山本 豊	大学院法学研究科教授		
塩地 洋	大学院経済学研究科教授		
平出 敦	大学院医学研究科教授		
伊藤 信行	大学院薬学研究科教授		
大瀧幸一郎	大学院工学研究科長、教授		
宮川 恒	大学院農学研究科教授		
中村 佳正	大学院情報学研究科長、教授		
美濃 導彦	学術情報メディアセンター長、教授		

高等教育研究開発推進センター運営委員：

田中 毎実	センター長		
松下 佳代	センター教授	大塚 雄作	センター教授
吉田 純	センター教授	小田 伸午	センター教授
山本 行男	センター教授	田地野 彰	センター教授
赤松 紀彦	センター教授	小山田耕二	センター教授
田口 真奈	センター准教授	溝上 慎一	センター准教授
田中 真介	センター准教授	桂山 康司	センター准教授
Dalsky David Jerome	センター准教授	Stewart Timothy William	センター准教授
河崎 美保	センター特定助教	酒井 博之	センター特定准教授
及川 恵	センター特定准教授	酒井 晃二	センター助教
石川 裕之	センター特定助教	坂本 尚久	センター特定助教
半澤 礼文	センター特定助教 (6 月～)		

平成 21 年度学外研究協力者：

米谷 淳	神戸大学大学教育推進機構教授
山内 乾史	神戸大学大学教育推進機構准教授
吉田 雅章	和歌山大学経済学部准教授
神藤 貴昭	立命館大学経済学部准教授
吉田 文	早稲田大学教育学部教授

中原 淳 東京大学大学総合教育研究センター准教授
 矢野 裕俊 大阪市立大学大学教育研究センター教授
 荒木 光彦 松江工業高等専門学校校長
 井下 理 慶應義塾大学総合政策学部教授
 藤田 哲也 法政大学文学部教授
 山田 礼子 同志社大学社会学部教授
 村上 正行 京都外国語大学マルチメディア教育研究センター准教授
 鈴木真理子 滋賀大学教育学部教授
 杉原 真晃 山形大学基盤教育院准教授准教授
 山田 剛史 島根大学教育開発センター講師
 小田 隆治 山形大学高等教育研究企画センター教授
 絹川 正吉 新潟大学理事
 夏目 達也 名古屋大学高等教育研究センター教授
 本郷優紀子 桜美林大学・総合研究機構事務局長
 尾澤 重知 大分大学高等教育開発センター准教授
 圓月 勝博 同志社大学文学部教授
 沖 裕貴 立命館大学大学教育開発・支援センター教授
 林 創 岡山大学教育学部講師
 栗田佳代子 大学評価・学位授与機構評価研究部准教授

平成 21 年度学内研究担当教員：

子安 増生 大学院教育学研究科教授
 田中 耕治 大学院教育学研究科教授
 高見 茂 大学院教育学研究科教授
 杉本 均 大学院教育学研究科教授
 楠見 孝 大学院教育学研究科教授
 大山 泰宏 大学院教育学研究科准教授
 土井 真一 大学院法学研究科教授
 八木紀一郎 大学院経済学研究科教授
 出口 康夫 大学院文学研究科准教授
 永井 和 大学院文学研究科教授
 平田 孝 大学院農学研究科教授
 平出 敦 大学院医学研究科教授
 大瀧幸一郎 大学院工学研究科教授（科長）
 湯浅 太一 大学院情報学研究科教授
 山本 裕 大学院情報学研究科教授
 日置 尋久 大学院人間・環境学研究科准教授
 富谷 至 人文科学研究所教授
 美濃 導彦 学術情報メディアセンター教授
 喜多 一 学術情報メディアセンター教授

平成 21 年度企画協力教員

大木 充 大学院人間・環境学研究科教授
 丸橋 良雄 大学院人間・環境学研究科教授
 酒井 敏 大学院人間・環境学研究科准教授
 西山 教行 大学院人間・環境学研究科准教授
 日置 尋久 大学院人間・環境学研究科准教授
 壇辻 正剛 学術情報メディアセンター教授

高等教育研究開発推進センター教育業績

（2009 年 4 月 1 日～2010 年 3 月 31 日）

※職名は 2009 年度現在

第一部門（高等教育教授システム研究開発部門）

田中 每実（教授）

1. 研究業績

【著作】

- ・田中每実「臨床的人間形成論の現在」（平野正久編『教育人間学の展開』307-329 頁）北樹出版 2009.4

【論文】

- ・田中每実「〈FD モデル〉の構築可能性：シンポジウムⅢ〈FD のダイナミックス—FD モデル構築に向けた今後の課題〉（大学教育学会『大学教育学会誌』第 31 巻第 1 号 76-79 頁）2009.5
- ・田中每実「教育哲学の教育現実構力について：課題研究「教育研究のなかの教育哲学—その位置とアイデンティティを問う」（教育哲学会『教育哲学研究』第 99 号 28-33 頁）2009.5
- ・田中每実「ファカルティ・ディベロップメントの組織化をめぐる」（『中部大学教育研究』No.99-16 頁）2009.12

【その他の著作物】

- ・田中每実「学会紹介：大学教育研究フォーラム」（民主教育協会雑誌『IDE 日本の高等教育』54-57 頁）2009.4
- ・田中每実「あとがき」（教育哲学会『教育哲学研究』第 100 号記念特別号 56-7 頁）2009.11
- ・田中每実「はじめに」「地域連携：活動成果の概要」（京都大学高等教育叢書 28『平成 21 年度採択特別教育研究経費報告書：大学教員研修のための相互研修型 FD 拠点形成 2009』1-10 頁、213 頁）

【学会発表など】

- ・田中每実「日本の教育×オープン・イノベーション：世界に貢献できる人財づくりと教育富国を目指して」2009 年度 第 2 回 BEAT 公開研究会：東京大学大学院情報学環ベネッセ先端教育技術学講座、東京大学本郷キャンパス情報学環・福武ホール 2009.9
- ・田中每実「二つの『回想録』を読む」（ラウンドテーブル「戦後日本の教育哲学」）教育哲学会大会第 52 回大会 名古屋大学 2009.10
- ・田中每実「ライフサイクル研究—これまでとこれから—」（田淵六郎「総合人間科学」構築に向けた人間の尊厳と発達にかんする学際的研究、2010 年度上智大学学内共同研究採択研究）上智大学文学部 2010.1

2. 教育活動

【学内】

- ①全学共通教育：「ライフサイクルと教育 B」（後期分担任）
- ③大学院教育：「高等教育論演習 I A・B」（教育学研究科、前・後期）、「高等教育開発論研究 A・B」（教育学研究科、前・後期、共同）

3. その他の活動

【学内委員】

- ・高等教育研究開発推進センター センター長
- ・京都大学教育研究評議会 評議員

- ・ 京都大学 FD 研究検討委員会 委員長

【社会活動】

- ・ 関西地区 FD 連絡協議会代表幹事校・代表
- ・ 教育哲学会常任理事・機関誌編集委員長
- ・ 大学教育学会常任理事
- ・ 日本学術会議連携会員
- ・ 山梨学院大学附属小学校客員研究員
- ・ 日本学術振興会科学研究費補助金二段審査委員

【講演】

- ・ 田中每実 2009.7 「松江高専の教育改善活動の意義と位置—京都大学と比較して—」 松江工業高等専門学校
- ・ 田中每実 2009.7 「多様化した学生への教育の質保証と教育支援」 中部大学
- ・ 田中每実 2009.10 「FD の現状と課題」 日本大学文理学部
- ・ 田中每実 2009.11 「FD の課題」 神奈川大学
- ・ 田中每実 2009.12 「全学的公開授業制度を軸とした FD 活動、3 年間の成果と課題：第 3 回 特色 GP（平成 20 年度）採択記念シンポジウム」 流通科学大学
- ・ 田中每実 2010.3 「相互研修型 FD の組織化と京都大学での実践」 岩手県立大学アイーナキャンパス：いわて高等教育コンソーシアム

大塚 雄作（教授）

1. 研究業績

【論文など】

- ・ 大塚雄作 2009 教育力を向上させる FD カレッジマネジメント、157、5-9. リクルート
- ・ 大塚雄作 2009 大学教員のライフサイクルと学問学習共同体への参画 大学教育学会誌、31、2、34-38.
- ・ 大塚雄作 2009 大学教育の質的向上に向けて 田慧生・田中耕治（主編）、高峽（執行主編）『21 世紀的日本教育改革—中日学者的視点—』、117-125. 教育科学出版社 [中華人民共和国]
- ・ 大塚雄作 2009 大学評価の展開 田慧生・田中耕治（主編）、高峽（執行主編）『21 世紀的日本教育改革—中日学者的視点—』、129-137. 教育科学出版社 [中華人民共和国]
- ・ 大塚雄作 2010 授業評価の読み方・使い方—学問学習共同体における実践的妥当化のすすめ— 東北大学高等教育開発推進センター（編）『学生による授業評価の現在』、37-64. 東北大学出版会

2. 教育活動

【学内】

①全学共通教育

- ・『教育評価の基礎』（後期）
- ・『ライフサイクルと教育 A』（前期；松下佳代・米谷淳・大塚雄作）

②学部教育

- ・『教育心理尺度開発演習』（前期）

③大学院教育

- ・『高等教育開発論研究 A』（前期）
- ・『高等教育論演習 II A』（前期）
- ・『高等教育開発論研究 B』（後期）
- ・『高等教育論演習 II B』（後期）

【学外】

- ・ 桜美林大学大学院国際学研究科大学アドミニストレーション専攻（修士課程）通信教育課程非常勤講師『高等教育

研究調査法』

- ・早稲田大学教職大学院『学力調査・評価の方法と活用』(8/18～20)
- ・京都橘大学・大学教育推進プログラム『オリターが養成する学習コミュニティの形成』2009 年度学外評価委員

3. その他の活動

【学内委員】

- ・高等教育研究開発推進センター第1部門 部門長
- ・高等教育研究開発推進機構執行協議会 協議員

【社会活動】

- ・日本教育心理学会常任編集委員
- ・日本教育心理学会理事 (2009 年 9 月～)
- ・独立行政法人大学評価・学位授与機構評価研究部 調査研究協力者
- ・独立行政法人大学評価・学位授与機構 学位審査会専門委員
- ・独立行政法人大学評価・学位授与機構 大学機関別認証評価委員会委員
- ・特定非営利活動法人実務能力認定機構理事
- ・財団法人大学コンソーシアム京都 FD フォーラム企画検討委員会委員
- ・最高裁判所 家庭裁判所調査官試験委員会臨時委員
- ・ISO/TC232 (人材育成と非公式教育サービス) 国内審議委員会委員
- ・電通有英会奨学生選考委員
- ・財団法人短期大学基準協会評議員

【講演・シンポジウムなど】

- ・大塚雄作 2009.6.7. 大学教員のライフサイクルと学問学習共同体への参画 大学教育学会第31回大会、シンポジウムⅡ 大学教員の養成・研修～Discipline との相剋・相生において 首都大学東京
- ・大塚雄作 2009.6.24. 実質的な FD と授業改善を目指して一新たなる学問学習共同体の形成に向けて 京都ノートルダム女子大学
- ・大塚雄作 2009.8.3. 個を「繋ぐ」リソースの活用—一新たなる学問学習共同体の形成に向けて 大学評価フォーラム「内部質保証システムの充実をめざしたアカデミック・リソースの活用」—個性ある大学づくりのために 大学評価・学位授与機構
- ・大塚雄作 2009.8.4. ミニ講義1 大学授業の現在 大学院生のための教育実践講座2009～大学でどう教えるか～ 京都大学
- ・大塚雄作 2009.9.26. FD に関わる大学間ネットワークの意義と課題 第26回関東地区大学教育研究会『大学間連携の「いま」と「これから」』 千葉大学
- ・大塚雄作 2009.9.29. FD とは何か—その意義と価値 近畿大学文芸学部
- ・大塚雄作 2009.10.3. 授業評価アンケートの活用—ある大学教員の FD 奮戦記 第2回京都 FDer 塾 佛教大学
- ・大塚雄作 2009.10.14. 授業評価をどう授業改善に活かすのか 京都橘大学
- ・大塚雄作 2010.11.19. 対話を根幹とする自学自習の創出—一新たなる学問共同体の形成に向けて 京都大学文学部
- ・大塚雄作 2009.12.17. 新たなる学問学習共同体の形成に向けて—創発をもたらす FD の発想 北陸先端科学技術大学院大学
- ・大塚雄作 2010.2.23. 共に創る FD の発想と評価—一新たなる学問学習共同体の形成に向けて 山梨県立大学
- ・大塚雄作 2010.2.24. 評価時代のネクストステップ—授業評価を活かす発想の転換に向けて 岐阜薬科大学
- ・大塚雄作 2010.3.6. 学生の学びを支える一つなぐ FD の展開 第15回 FD フォーラムシンポジウム (大学コンソーシアム京都主催)・コーディネーター 同志社大学
- ・大塚雄作 2010.3.7. 授業アンケートの読み方・活かし方 第15回 FD フォーラム (大学コンソーシアム京都主催)・第4分科会「学生による授業アンケートの理論・実践・応用」 同志社大学

- ・大塚雄作 2010.3.11. 授業評価の読み方・使い方—新たな学問学習共同体の形成に向けて 岐阜大学医学部看護学科
- ・大塚雄作 2010.3.15. 大学院教育に今求められているものは何か？—創発をもたらすFDの発想 金沢大学理工学域主催 第2回FDシンポジウム

松下 佳代（教授）

1. 研究業績

【著書】

（執筆分担）

- ・松下佳代 2009.6 「能力と幸福、そして幸福感—強さと弱さ—」子安増生編『心が活きる教育に向かって—幸福感を紡ぐ心理学・教育学—』ナカニシヤ出版、37-60 頁
- ・松下佳代 2010.2 「学びの評価」佐伯胖監修・渡部信一編『「学び」の認知科学事典』大修館書店、442-458 頁
- ・松下佳代 2010.3 「大学における「学びの転換」とは—unlearn 概念による検討—」東北大学高等教育開発推進センター編『大学における「学びの転換」と学士課程教育の将来』東北大学出版会、5-15 頁

【論文】

- ・松下佳代 2009.5 「「主体的な学び」の原点—学習論の視座から—」『大学教育学会誌』第31巻第1号、14-18 頁
- ・平山朋子・松下佳代 2009.12 「理学療法教育における自生的FD実践の検討—OSCE リフレクション法を契機として—」『京都大学高等教育研究』第15号、15-26 頁

【その他の著作物】

（報告書）

- ・松下佳代 2010.3 「ISSOTL2009 参加報告」『京都大学高等教育叢書 28』389-407 頁
- ・松下佳代・石川裕之・河崎美保 2010.3 「FD 連携企画ワーキンググループ」『京都大学高等教育叢書 28』258-262 頁
- ・河崎美保・藤本夕衣・松下佳代 2010.3 「大学院生のための教育実践講座—大学でどう教えるか—」『京都大学高等教育叢書 28』173-196 頁
- ・半澤礼之・田口真奈・松下佳代 2010.3 「文学研究科プレFDプロジェクト」『京都大学高等教育叢書 28』16-52 頁

（書評）

- ・松下佳代 2009.6 「秋田喜代美、キャサリン・ルイス編著『授業の研究 教師の学習—レッスンスタディへのいざない—』（明石書店、2008 年）」『教育学研究』第76巻第2号、246-247 頁

（その他）

- ・松下佳代 2009.8 「大学教育のネットワーク—日本と世界—」『素粒子論研究（電子版）』（京都大学基礎物理学研究所研究会「科学としての科学教育」）31-36 頁（http://www2.yukawa.kyoto-u.ac.jp/~sokened/sokendenshi/vol3/kagakukagaku_slides.pdf）
- ・松下佳代 2010.3 「どうなる？ 指導要録の改定」『数学教室』第56巻第3号、86-87 頁

【学会発表】

- ・松下佳代 2009.6 「大学における目標・評価の標準化の批判的検討—Tuning Project を事例として—」（シンポジウム「大学における教育学教育の目標・評価を考える—国境を越える質の保証がもたらすもの—」）教育目標・評価学会中間研究集会、東洋大学
- ・松下佳代 2009.7 「汎用的（generic）」という神話」（課題研究Ⅱ『「生きる力」の時代におけるヒドゥン・カリキュラムをどう捉えるべきか』）日本カリキュラム学会第20回大会、神田外語大学
- ・松下佳代 2009.9 「京都大学センターによるFDの組織化：そのサステナビリティとスケーラビリティ」（全体シンポジウム「変革をささえる教育工学：サステナビリティとスケーラビリティ」）日本教育工学会第25回全国大会、東京大学

- ・ Kayo Matsushita 2009.10 Building multi-leveled networks based upon the concept of mutual faculty development (Panel “Mutual FD meets SOTL: Redefining faculty development and building faculty networks”) ISSOTL 2009, Indiana University, Bloomington.
- ・ 松下佳代 2009.11 「学習論・能力論の立場から」(公開シンポジウム「学力と評価の最前線」) 教育目標・評価学会第20回大会、京都大学
- ・ 松下佳代 2010.3 特別講演「大学教育の実践知を共有するーコミュニティ・ネットワーク・コモンズー」第16回大学教育研究フォーラム、京都大学

2. 教育活動 (2008 年度)

【学内】

- ①全学共通教育:「ライフサイクルと教育 A」(前期)、「学力・学校・社会」(後期)
- ③大学院教育:「高等教育開発論研究 A・B」(教育学研究科、前・後期)、「高等教育論演習ⅢA・B」(教育学研究科、前・後期)

【学外】

- ・ 東京大学大学院教育学研究科「能力・学習・評価」

3. その他の活動

【学内委員】

- ・ 女性研究者支援センター 地域連携事業ワーキンググループ推進員
- ・ FD 研究検討委員会 第2 WG メンバー

【社会活動】

- ・ 日本教育学会理事
- ・ 日本教育方法学会理事
- ・ 日本カリキュラム学会理事、学会誌編集委員
- ・ 教育目標・評価学会理事
- ・ 大学教育学会理事、学会誌編集委員
- ・ 学校図書算数教科書著作者
- ・ 質の高い大学教育推進プログラム審査委員
- ・ 日本学術振興会科学研究費補助金第1段審査委員
- ・ 東京大学教養学部外部評価委員

【講演】

(FD 関係)

- ・ 松下佳代 2009.5 「“Faculty づくり” の取り組みー京大センターの場合ー」関西大学教育開発支援センター設立記念フォーラム、関西大学千里キャンパス
- ・ 松下佳代 2009.8 「大学教育のネットワークー日本と世界ー」京都大学基礎物理学研究所研究会「科学としての科学教育」、京都大学基礎物理学研究所
- ・ 松下佳代 2009.9 「指定討論:大学の科学教育を変えるー誰が・何を・どのように?ー」(パネルディスカッション「学士課程における科学教育の未来」)、京都大学
- ・ 松下佳代 2009.12 「新しい評価のパラダイムーパフォーマンス評価の観点からー」(シンポジウム「学生を変容させる初年次教育」)、河合塾千種校
- ・ 松下佳代 2010.3 「FD の視点からみた OSCEーOSCE リフレクション法から自生的 FD へー」札幌医科大学 FD セミナー

(その他)

- ・ 松下佳代 2009.9 「パフォーマンス評価の枠組み」河合塾研究開発本部講演、河合塾池袋校

- ・松下佳代 2009.11 「パフォーマンス評価—思考と表現を評価する—」小松市立矢田野小学校研究発表会
- ・松下佳代 2010.1 「学びを評価する—パフォーマンス評価の試み—」(グローバル COE 共催シンポジウム「子どものこころの発達と教育—最新の研究成果に学ぶ—」) 慶應義塾大学三田キャンパス

溝上 慎一 (准教授)

1. 研究業績

【著書】

- ・溝上慎一 2009.5 「授業・授業外学習による学習タイプと能力や知識の変化・大学教育満足度との関連性—単位制度の実質化を見据えて—」山田礼子 (編)『大学教育を科学する—学生の教育評価の国際比較—』東信堂. Pp. 119-133.
- ・溝上慎一 2010.2 「現代社会における大学生の学びとアイデンティティ形成」佐伯胖 (監修)・渡部信一 (編)『「学び」の認知科学事典』大修館書店. Pp. 223-238.

【論文】

- ・溝上慎一・中間玲子・山田剛史・森朋子 2009.5 「学習タイプ (授業・授業外学習) による知識・技能の獲得差違の検討」大学教育学会誌、31 (1)、112-119.
- ・溝上慎一 2009.4 『自己成長モードが大学生を教養に導く』世界思想 (世界思想社)、36、35-39.
- ・溝上慎一 2009.12 「大学生活の過ごし方」から見た学生の学びと成長の検討—正課・正課外のバランスのとれた活動が高い成長を示す—』京都大学高等教育研究、15、107-118.

【学会発表】

- ・溝上慎一 2009.6 「大学教育を通して成長を実感する High Performer としての学生タイプの特徴」第 31 回大学教育学会、首都大学東京
- ・Mizokami, S. 2009.8 「The spurt of self-formation in adolescence.」Poster presented at the 14th European Conference on Developmental Psychology, Vilnius, Lithuania.
- ・溝上慎一 2009.8 「ポジショニング概念によって異世界となる自己世界とその形成プロセス」サトウタツヤ・安田裕子学会企画シンポジウム「時間と空間のなかで自己の変化を捉える」日本心理学会第 73 回大会、立命館大学
- ・溝上慎一 2009.8 「オランダの心理学者 Hubert Hermans との出会いを通じて」都筑学企画ワークショップ「ヨーロッパ心理学の伝統から学ぶ—身体、時間、自己、他者—」日本心理学会第 73 回大会、立命館大学
- ・溝上慎一 2009.9 指定討論. 大久保智生・半澤礼之・自主シンポジウム「学校適応はどのようにとらえられるのか」日本教育心理学会第 51 回総会、静岡大学
- ・溝上慎一・須川いずみ・岩田真理子 2010.3 「FD/教育改善とキャリア教育を『大学生活』で接続する—大学生キャリアセミナー (学生研修) の理論と実践—」第 16 回大学教育研究フォーラム発表論文集、京都大学

2. 教育活動

【学内】

①全学共通教育

「現代日本の青年期 A」「現代日本の青年期 B」「自己形成の心理学 A」「自己形成の心理学 B」

② KUINEP

「University and University Students in Today's Japan」「Self-formation in Adolescence」

③大学院教育

教育学研究科「高等教育開発論研究 A」「高等教育開発論研究 B」

3. その他の活動

【学内委員】

- ・教育学研究科・学生委員

【社会活動】

- ・ 大学教育学会理事
- ・ 日本青年心理学会理事
- ・ International Conference on the Dialogical Self、Scientific Committee 委員
- ・ 日本青年心理学会『青年心理学研究』編集委員
- ・ 電通育英会大学生調査アドバイザー

【講演等】

- ・ 溝上慎一 2009.7 「分権的自己観にもとづく自己形成—青年期のアイデンティティ形成プロセスをテーマに一」
追手門学院大学
- ・ 溝上慎一 2009.7 「学生にとって役立つ FD」京都産業大学
- ・ 溝上慎一 2009.7 「英語コア C」特別講義 鹿児島大学
- ・ 溝上慎一 2009.9 「みんなで「イマドキ大学生」を考える！？—「ゆとり教育世代」のラベリングを超えて—」
東京大学
- ・ 溝上慎一 2009.10 「高校における学習・キャリア学習が大学での学びにどう活きるか」広島県立尾道北高校
- ・ 溝上慎一 2009.11 「大学全入時代に対応した教育方法—学生の学習意欲喚起につながる教育改善—」北九州市立大学
- ・ 溝上慎一 2009.11 「同窓会と連携する先駆的キャリア教育モデル」シンポジウム基調講演「キャリア教育の成功の指標—本事業に対する評価・コメント—」一橋大学
- ・ 溝上慎一 2009.11 「意欲的に学び、自分を成長させるための読書とマンガ」創価大学
- ・ 溝上慎一 2009.11 「学生が主体的に学ぶための授業デザイン」明治大学
- ・ 溝上慎一 2009.12 「初年次教育における学習意欲と基礎能力の育成」立教大学
- ・ 溝上慎一 2009.12 「ワダイ生の特徴を分析する」和歌山大学
- ・ 溝上慎一 2010.1 「支援の必要な学生タイプはどのような大学生生活を過ごしているか—学生 4 類型から見て—」
東京国際交流館
- ・ 溝上慎一 2010.2 「知識・技能・態度の全体的育成を目指すアクティブ・ラーニング—授業デザインと評価の関連に焦点づけて—」金沢大学
- ・ 溝上慎一 2010.3 「大学におけるピア・サポート活動の有効性を考える」基調講演「ピアサポート活動に従事する学生の大学生活の特徴と成長」香川大学

田口 真奈（准教授）

1. 研究業績

【その他著作物】

- ・ 半澤礼之・田口真奈 2010.3 「若手 FD 研究者ネットワーク（JFDN Jr.）—2009 年度の活動報告と今後の展開について—」『京都大学高等教育叢書 28 平成 20 年度採択特別教育研究経費報告書 大学教員教育研修のためのモデル拠点形成 2009』、379-388 頁
- ・ 半澤礼之・田口真奈、松下佳代 2010.3 「文学研究科プレ FD プロジェクト」『京都大学高等教育叢書 28 平成 20 年度採択特別教育研究経費報告書 大学教員教育研修のためのモデル拠点形成 2009』、15-52 頁
- ・ 田口真奈、半澤礼之 2010.3 「FD 共同実施ワーキンググループ」『京都大学高等教育叢書 28 平成 20 年度採択特別教育研究経費報告書 大学教員教育研修のためのモデル拠点形成 2009』、253-257 頁

【学会発表】

- ・ 大山牧子・酒井博之・笹尾真剛・村上正行・田口真奈 2009.8.21 「高等教育における ICT を活用した FD 支援システムの構築に向けて」教育システム情報学会第 34 回全国大会講演論文集 名古屋大学
- ・ 田口真奈 2009.9.21 「FD ネットワーク構築の意義と課題—関西西部地区における FD 実態調査をもとに一」日本教育工学会第 25 回全国大会課題研究 東京大学

- ・村上正行・杉原真晃・半澤礼之・田口真奈 2009.9.21 「若手 FD 研究者ネットワークの活動から見た FD 研究における教育工学の役割」 日本教育工学会第 25 回全国大会課題研究 東京大学
- ・大山牧子・田口真奈 2009.9.21 「アクティブラーニング形態の授業における授業外グループ学習のプロセス分析—メディアの活用に着目して—」 日本教育工学会第 25 回全国大会一般研究 東京大学
- ・酒井博之、田口真奈、笹尾真剛、大山牧子 2009.12.19 「大学教員のためのオンライン教育研修支援システム『MOST』」 日本教育工学会研究会 京都外国語大学
- ・酒井博之、田口真奈、笹尾真剛、大山牧子 2010.3.19 「大学教員のためのオンライン教育研修支援システムの開発—『MOST』を活用した FD・教育改善活動の提案—」 第 16 回大学教育研究フォーラム個人研究発表 京都大学
- ・半澤礼之、田口真奈、杉原真晃、村上正行 2010.3.19 「若手 FD 担当者の実態調査—他部局との連携という視点からの検討—」 第 16 回大学教育研究フォーラム個人研究発表 京都大学
- ・石川裕之、村上正行、及川恵、田口真奈 2009.6.7 「FD に関わる若手研究者の業務実態と課題—若手 FD 研究者ネットワーク（JFDN Jr.）運営委員に対するアンケート調査を手がかりに—」 第 31 回大学教育学会大会 首都大学東京

2. 教育活動

【学内】

- ①全学共通教育：「ライフサイクルと教育 B」（後期分担）
- ③大学院教育：「高等教育開発論研究 A・B」（教育学研究科、前・後期）、「高等教育文献購読演習 A・B」（教育学研究科、前・後期）

3. その他活動

【学内委員】

- ・京都大学教育学研究科・学生委員

【講演】

- ・田口真奈 2010.2.12 「ICT を活用した大学授業改善」 平成 21 年度第 4 回工学部 FD 講演・討論会 徳島大学
- ・半澤礼之、田口真奈 2010.2.13 「若手研究者がネットワーキングすることで新たな FD には何が展望できるか」 多次元的な学士力養成を担う総合的学修支援 公開シンポジウム お茶の水女子大学
- ・田口真奈、出口康夫、赤嶺宏介 2010.3.18 「未来のファカルティをどう育てるか—京都大学文学研究科プレ FD プロジェクトを事例に—」 第 16 回大学教育研究フォーラム小講演 京都大学

酒井 博之（特定准教授）

1. 研究業績

【論文】

- ・森朋子・酒井博之（2009.12）Web 公開授業という新しい FD のカタチ、e-Learning 教育研究、第 4 巻、52-54.

【その他の著作物】

- ・酒井博之 2010.3 「II-1. 地域連携—関西地区 FD 連絡協議会の 2 年目の活動成果— 1. 設立総会」「II-2. 組織と実施体制」「II-3. 幹事校会議」「II-4-4. 広報ワーキンググループ」「III-1. 大学教育ネットワーク」「IV-1. ISSOTL2009 参加」京都大学高等教育叢書 28（平成 21 年度採択特別教育研究経費報告書「大学教員教育研修のための相互研修型 FD 拠点形成 2009」）

【学会発表】

- ・大山牧子・酒井博之・笹尾真剛・村上正行・田口真奈 2009.8 「高等教育における ICT を活用した FD 支援システムの構築に向けて」教育システム情報学会、第 34 回全国大会、名古屋大学
- ・酒井博之・笹尾真剛 2009.9 「Web を利用した公開授業システムの実用化に向けて（3）」日本教育工学会第 25 回全国大会講演論文集、911-912、東京大学

- ・ Sakai, H. 2009.10 The localization of KEEP Toolkit and its application to higher education in Japan, the 2009 International Society for the Scholarship of Teaching and Learning Conference. (Poster Session) (Indiana, U.S.A., Oct. 23, 2009)
- ・ 酒井博之・田口真奈・笹尾真剛・大山牧子 2009.12 「大学教員のための教育研修支援システム「MOST」の開発—KEEP Toolkit を活用した FD・教育改善に向けて—」日本教育工学会研究報告集、JSET09-5、121-124、京都外国語大学
- ・ 笹尾真剛・酒井博之 2009.12 「e ポートフォリオを活用した高等教育における教育改善・FD 活動の事例分析—米国カーネギー教育振興財団における取り組みから—」日本教育工学会研究報告集、JSET09-5、115-120、京都外国語大学
- ・ 酒井博之 2010.3 「大学教員のための教育研修システムの構築：KEEP Toolkit と Sakai の活用」第 3 回 Ja Sakai カンファレンス、熊本大学
- ・ 酒井博之・田口真奈・笹尾真剛・大山牧子 2010.3 「大学教員のためのオンライン教育研修支援システムの開発—「MOST」を活用した FD・教育改善活動の提案—」第 16 回大学教育研究フォーラム、164-165、京都大学

2. 教育活動 (2009 年度)

【学内】

- ③大学院教育：「高等教育開発論研究 A・B」(前・後期・共同)、「高等教育基礎ゼミナール」(前期・共同)

【学外】

- ・ 京都コンピュータ学院非常勤講師

3. その他の活動

【学内委員】

- ・ 情報環境機構 KUINS 利用負担金検討委員会委員

【社会活動】

- ・ 関西地区 FD 連絡協議会 広報ワーキング・グループ
- ・ 関西地区 FD 連絡協議会 Web 公開授業研究サブ・グループ 主査

【その他】

- ・ 松下佳代・酒井博之 2009.8.28 「大学教育のネットワーク：日本と世界」京都大学基礎物理学研究所研究会「科学としての科学教育」、京都大学
- ・ 酒井博之 2009.11.12 「テクノロジーを活用した FD —オンライン上に相互研修型 FD の場をどう構築するか—」京都大学学術情報メディアセンターセミナー、京都大学
- ・ 酒井博之 2009.12.3 「テクノロジーを活用した FD：オンライン上に相互研修の場をどう構築するか」京都大学大学院情報学研究科情報学若手コロキウム、京都大学

及川 恵 (特定准教授)

1. 研究業績

【著書】

- ・ 坂本真士・及川恵・伊藤拓・西河正行 2010.1 「大学生における精神的不適応予防に関する研究」 風間書房

【論文】

- ・ 及川恵・坂本真士 2009.12 「抑うつ対処の自己効力感の向上を目的とした実践に関する効果研究—大学の授業を活用して—」『健康心理学研究』第 22 巻 2 号、60-66.

【その他の著作物】

- ・ 及川恵・大塚雄作・石川裕之 2009.12 「平成 20 年度工学部 4 年生学生実態調査 (資料集)」『特別教育研究「大学教員教育研修のための相互拠点型 FD 拠点形成」プロジェクト』
- ・ 及川恵 2010.3 「公開研究会」『京都大学高等教育叢書 28 (平成 21 年度採択特別教育研究経費報告書 大学教員

教育研修のための相互拠点型 FD 拠点形成 2009)』、100-102.

- ・ 及川恵・大塚雄作 2010.3 「研究ワーキンググループ」『京都大学高等教育叢書 28（平成 21 年度採択特別教育研究経費報告書 大学教員教育研修のための相互拠点型 FD 拠点形成 2009)』、267-274.
- ・ 大塚雄作・石川裕之・及川恵 2010.3 「FD ネットワーク代表者会議 (JFDN)」『京都大学高等教育叢書 28（平成 21 年度採択特別教育研究経費報告書 大学教員教育研修のための相互拠点型 FD 拠点形成 2009)』、317-321.

【学会発表】

- ・ 石川裕之・村上正行・及川恵・田口真奈 2009.6 「FD に関わる若手研究者の業務実態と課題—若手 FD 研究者ネットワーク (JFDN Jr.) 運営委員に対するアンケート調査を手がかりに—」第 31 回大学教育学会大会（首都大学東京）
- ・ 及川恵・坂本真士 2009.8 「心理教育プログラムの効果と認知的特性との関連の検討—抑うつ対処の自己効力感の各側面の変化に着目して—」日本心理学会第 73 回大会（立命館大学）
- ・ 林潤一郎・及川恵 2009.9 「活動的快を伴う気晴らしの問題解決促進効果における目標明確化の影響—気晴らしの効果的活用に関する研究 1—」日本健康心理学会第 22 回大会（早稲田大学）
- ・ 及川恵・林潤一郎 2009.9 「ネガティブ気分による気晴らし方略の活用の変化—気晴らしの効果的活用に関する研究 2—」日本健康心理学会第 22 回大会（早稲田大学）
- ・ 及川恵・小川絢子・大塚雄作・石川裕之 2010.3 「学生生活における学業困難度と心理的適応との関連—工学部卒業時実態調査の結果から—」第 16 回大学教育研究フォーラム（京都大学）

2. 教育活動（2009 年度）

【学内】

- ①全学共通教育：「心理的適応とストレス」
- ③大学院教育：「高等教育開発論研究 A・B」（前・後期・共同）

3. その他の活動

- ・ 及川恵 2009.11 「卒業時学生調査の結果—心理的適応に焦点を当てた検討」京都大学高等教育研究開発推進センター 第 80 回公開研究会
- ・ 及川恵 2009.12 「調査報告 工学部 4 回生学生実態調査の概要」第 5 回工学部教育シンポジウム

石川 裕之（特定助教）

1. 研究業績

【著書】

- ・ 共著
- ・ 石川裕之 2009.8 「韓国の学校教育」日本教育大学院大学監修、河上亮一・高見茂・出口英樹編著『教員免許更新講習テキスト—教育現場のための理論と実践—』昭和堂、211-216 頁

【その他の著作物】

- ・ 石川裕之 2010.3 「韓国における高等教育の質保証」深堀聰子（研究代表者）『学習成果アセスメントのインパクトに関する総合的研究』国立教育政策研究所平成 21 年度プロジェクト研究中間報告書、43-60 頁
- ・ 石川裕之 2010.3 「2011 学年度大学入学選考基本事項（抄訳）」南部広孝（研究代表者）『東アジア諸国・地域における大学入学者選抜制度の比較研究』平成 19-21 年度科学研究費補助金基盤研究（C）研究成果報告書、69-82 頁
- ・ 石川裕之 2010.3 「梨花女子大学入学査定官専門訓練及び養成課程」南部広孝（研究代表者）『東アジア諸国・地域における大学入学者選抜制度の比較研究』平成 19-21 年度科学研究費補助金基盤研究（C）研究成果報告書、83-90 頁
- ・ 石川裕之 2010.3 「韓国におけるトランスナショナル・エデュケーションに関する法令・条項」杉本均（研究代表者）『トランスナショナル・エデュケーションに関する総合的国際研究』平成 20-22 年度科学研究費補助金基盤

研究 (B) 中間報告書、72-82 頁

【学会発表】

- ・石川裕之・村上正行・及川恵・田口真奈 2009.6 FD に関わる若手研究者の業務実態と課題—若手 FD 研究者ネットワーク (JFDN Jr.) 運営委員に対するアンケート調査を手がかりに— 大学教育学会第 31 回大会、首都大学東京
- ・深堀聰子・松浦真理・南部広孝・鈴木俊之・宮崎元裕・楠山研・石川裕之 2009.6 「子育て支援の整合性・公共性・平等性に関する国際比較研究—総括—」日本比較教育学会第 45 回大会、東京学芸大学

2. 教育活動 (2009 年度)

【学外】

- ・非常勤講師
びわこ成蹊スポーツ大学
奈良女子大学

3. その他の活動

【社会活動】

- *学会役員、学外委員など
- ・日本比較教育学会 幹事 (近畿地区)

【講演】

- ・石川裕之 2009.5 韓国ふしぎ発見—受験戦争の真相— 日韓学生フォーラム主催シンポジウム、一橋大学

【その他】

- ・放送大学・大学院 TV 講義「才能と教育 (’10)」収録協力・出演

半澤 礼之 (特定助教)

1. 研究業績

【論文】

- ・半澤礼之 2009 大学生の学業に対するリアリティショックと学業・授業意欲 低下の関連: Locus of control の高低による関連の差異の検討 共愛学園前橋国際大学論集、9、27-37.
- ・半澤礼之 2009 大学 1 年生における学業に対するリアリティショックとその対処—学業を重視して大学に入学した心理学専攻の学生を対象とした面接調査から— 青年心理学研究、21、31-51.

【その他の著作物】

- ・半澤礼之・田口真奈 2010 若手 FD 研究者ネットワーク (JFDN Jr.) —2009 年度の活動報告と今後の展開について— 『京都大学高等教育叢書 28 平成 20 年度採択特別教育研究経費報告書 大学教員教育研修のためのモデル拠点形成 2009』
- ・半澤礼之・田口真奈・松下佳代 2010 文学研究科プレ FD プロジェクト 『京都大学高等教育叢書 28 平成 20 年度採択特別教育研究経費報告書 大学教員教育研修のためのモデル拠点形成 2009』
- ・田口真奈・半澤礼之 2010 FD 共同実施ワーキンググループ 『京都大学高等教育叢書 28 平成 20 年度採択特別教育研究経費報告書 大学教員教育研修のためのモデル拠点形成 2009』

【学会発表】

- ・半澤礼之 2009 学校適応はどのようにとらえられるのか シンポジウム企画・話題提供者 「大学生の学業初期適応: 「学業に対するリアリティショック」と「大学生の生徒化」という観点から」日本教育心理学会第 51 回総会、静岡大学
- ・高澤健司・半澤礼之・武田美亜 2009 大学生における職業展望浮沈曲線とアイデンティティの関連 日本教育心理学会第 51 回総会、静岡大学

- ・ 武田美亜・高澤健司・半澤礼之 2009 大学生の自己開示の範囲・程度と被理解感の関連についての検討（1）
日本教育心理学会第51回総会、静岡大学
- ・ 村上正行・杉原真晃・半澤礼之・田口真奈 2009 若手FD研究者ネットワークの活動からみたFD研究における
教育工学の役割 日本教育工学会第25回全国大会、東京大学
- ・ 半澤礼之・田口真奈・杉原真晃・村上正行 2010 若手FD担当者の実態調査―他部局との連携という視点からの
検討― 第16回大学教育研究フォーラム、京都大学
- ・ 高澤健司・半澤礼之・武田美亜 2010 大学生における職業展望浮沈曲線とライフイベントの関連 日本発達心
理学会第21回大会、神戸国際会議場

2. 教育活動

【学外】

- ・ 京都橘大学非常勤講師（教育心理学）

3. その他の活動

【社会活動】

- ・ 心理科学研究会運営委員

【講演】

- ・ 長崎大学FDサマースタッフ講師 「現代大学生の態度と行動」 2009.9.7、長崎大学
- ・ 多元的な学士力養成を担う総合的学修支援公開シンポジウム 教育の質保証―4つの大学の取り組みから― シン
ポジスト「若手研究者がネットワークングすることで新たなFDには何が展望できるか」2010.2.13、お茶の水女子
大学
- ・ 日本青年心理学会研究企画委員会ワークショップ 大学院教育の課題と院生の成長 話題提供者 「大学院生はど
のようにして“教育活動”と出会うか―大学院生を対象としたプレFDの取り組みから―」 2010.2.27、名古屋大学

第二部門（全学共通教育カリキュラム企画開発部門）

吉田 純（教授）

1. 研究業績

【著書】

- ・ 吉田純 2009.6 「社会システムとリスク―「リスク社会」としての現代社会」吉川栄和・杉万俊夫・吉田純（編）
『新リスク学ハンドブック―現代産業技術のリスクアセスメントと安全・安心の確保』三松株式会社出版事業部、
355-370 頁

【論文】

- ・ 吉田純 2010.3 「再帰的近代化論と親密圏・公共圏論の布置」、京都大学グローバルCOE「親密圏と公共圏の再
編成を目指すアジア拠点」国際共同研究「公共圏と『多元的近代』の社会学理論」成果報告書、71-90 頁

【学会発表】

- ・ 吉田純 2009.9 「リスク社会における『存在論的安心』の構築」、シンピオ社会研究会（メルパルク東京）

2. 教育活動（2009 年度）

【学内】

- ①全学共通教育：「社会学基礎論」「経験社会学Ⅰ」「社会学基礎ゼミナールA・B」
- ②学部教育：「社会情報論」「社会情報論演習A・B」（以上、総合人間学部）、「社会学特殊講義」（文学部）
- ③大学院教育：「共生人間学研究Ⅰ・Ⅱ」「人間・社会行動論2」「社会行動論演習2」（以上、人間・環境学研究科、博
士前期課程）、「共生人間学特別研究Ⅰ・Ⅱ」「社会行動論特別演習Ⅰ・Ⅱ」（以上、人間・環境学研究科、博士後期課

程)、「社会学特殊講義」(文学研究科)

3. その他の活動

【学内委員】

- ・ 高等教育研究開発推進機構執行協議会
- ・ 全学共通教育システム委員会
- ・ 教養教育専門委員会
- ・ 教養教育専門委員会 A 群科目部会
- ・ 教養教育専門委員会 B 群科目部会

【社会活動】

- ・ 日本社会情報学会 理事、会誌編集委員
- ・ 日本社会学会 データベース委員
- ・ 関西社会学会 事務局担当理事
- ・ 近畿地区大学教育研究会 専門委員、企画小委員会委員

小田 伸午 (教授)

1. 研究業績

【著書】

- ・ 野球選手なら知っておきたい「からだ」のこと 投球・送球編
土橋恵秀、小山田良治、小田伸午、大修館書店、2009.7 月
- ・ 野球選手なら知っておきたい「からだ」のこと 打撃編
土橋恵秀、小山田良治、小田伸午、大修館書店、2009.7 月

【論文】

- ・ Shinya M, Fujii S, Oda S: Corrective Postural Responses Evoked by Completely Unexpected Loss of Ground Support during Human Walking. *Gait and Posture* 29: 483-487, 2009.
- ・ Shinya M, Yamada Y, Oda S: Weight Distribution Influences the Time Required to Lift the Leg Even Under Normal Standing Condition. *Gait and Posture* 29: 623-627, 2009.
- ・ Fujii S, Kudo K, Ohtsuki T, & Oda S. Tapping performance and underlying wrist muscle activity of non-drummers, drummers, and the world's fastest drummer. *Neuroscience Letters* 459: 69-73, 2009.
- ・ Fujii S & Oda S. Effects of stick use on bimanual coordination performance during rapid alternate tapping in drummers. *Motor Control*, 13(3): 331-341, 2009.
- ・ Fujii S, Kudo K, Shinya M, Ohtsuki T, & Oda S. Wrist muscle activity during rapid unimanual tapping with a drumstick in drummers and non-drummers. *Motor Control*, 13(3): pp. 237-250, 2009.
- ・ Fujii S & Oda S. Effects of stick use on rapid unimanual tapping in drummers. *Perceptual and Motor Skills (Ammons Scientific)*, 108(3): 962-970, 2009.
- ・ Fujii S, Kudo K, Shinya M, Ohtsuki T, & Oda S. Wrist muscle activity during rapid unimanual tapping with a drumstick in drummers and non-drummers. *Motor Control*, 13(3): 237-250, 2009.
- ・ Kokubu M, Ando S & Oda S. The order of gaze shifts affects spatial and temporal aspects of discrete bimanual pointing movements. *Exp Brain Res*, 198: 501-511, 2009.
- ・ Yamada Y, Masuo Y, Yokoyama K, Hashii Y, Ando S, Okayama Y, Morimoto T, Kimura M, Oda S : Proximal electrode placement improves the estimation of body composition in obese and lean elderly during segmental bioelectrical impedance analysis. *Eur J Appl Physiol*. 107: 135-44, 2009.
- ・ 亀谷亮輔、宇津亮太、進矢正宏、小田伸午：技能レベルの違いから見たテニスのフットワークの空間制御の比較
京都体育学研究 25: 1-10, 2009.

- ・ Yosuke Yamada, D A. Schoeller, 2Eitaro Nakamura, Taketoshi Morimoto, 5 Misaka Kimura, and Shingo Oda: Extracellular Water May Mask Actual Muscle Atrophy During Aging. *Journal of Gerontology* (2010)
- ・ Katsuhara Y, Fujii S, Kametani R, Oda S : Spatiotemporal Characteristics of Rhythmic, Stationary Basketball Bouncing in Skilled and Unskilled Players. *Perceptual and Motor Skills* 110, 2, 1-10. 2010.
- ・ Shinya M and Shingo Oda: Fast muscle responses to an unexpected foot-in-hole scenario, evoked in the context of prior knowledge of the potential perturbation. *Exp Brain Res.* 203: 437-446, 2010.
- ・ Fuji K and Yamada Y and Oda S: Skilled baseball players rotate their shoulders more during running while dribbling. *Perceptual and Motor Skills* 110, 23, 983-994, 2010.
- ・ Fujii S, Kudo K, Ohtsuki T, Oda S: Intrinsic Constraint of Asymmetry Acting as a Control Parameter on Rapid, Rhythmic Bimanual Coordination: A Study of Professional Drummers and Non-drummers. *J Neurophysiol* 2010. (in press)
- ・ 青山宏樹、山田陽介、進矢正宏、楠本秀忠、小田伸午：下腹部への重錘負荷時の歩行動作と妊婦の歩行動作の比較 体力科学 59: 375-388、2010.
- ・ 生田泰志、松田有司、山田陽介、来田宣幸、小田伸午：クロール泳における泳速度、ストローク頻度およびストローク長の変化と筋活動の関係 体力科学 59: 427-438、2010.

【学会発表】

- ・ 藤井慶輔、山田陽介、小田伸午「バスケットボール選手のドリブル走速度と肩の水平回転角度の関係」第21回日本スポーツ方法学会、早稲田大学、東京、2010年3月
- ・ 山下大地・山本真史・山田陽介・進矢正宏・小田伸午「トレーニングラダーを用いたステップ動作のリズムに関する研究」第21回日本スポーツ方法学会 早稲田大学 2010年3月
- ・ 山下大地・山本真史・山田陽介・進矢正宏・小田伸午「接地位置の制約によるステップ動作のリズム変化」第139回京都体育学会 京都教育大学 2010年3月

2. 教育活動

【学内】

①全学共通教育

担当授業：運動科学、スポーツ実習（二軸動作）

委員会：全学共通教育システム委員会、基礎教育専門委員会、教養教育専門委員会、D群科目部会（部会長）

②学部教育

担当授業：運動制御ゼミ IA、運動制御ゼミ IB、運動制御実験、認知行動科学入門

③大学院教育

担当授業：身体運動学、行動制御学演習 1、認知・行動科学基礎論、共生人間学研究 I、共生人間学研究 II、共生人間学特別研究 I、共生人間学特別研究 II、行動制御学特別演習 1、行動制御学特別演習 2、認知・行動科学特別セミナー

3. その他の活動

【学会活動】

- ・ 日本体育学会会員、京都体育学会副会長、日本体力医学会幹事、日本運動生理学会会員、日本バイオメカニクス学会会員、日本トレーニング科学会会員

【高校大学連携】

- ・ 京都府立向陽高校にてスポーツ科学の授業担当
- ・ 大阪市立桜宮高校にてスポーツ科学の授業担当

山本 行男 (教授)

1. 研究業績

【論文】

- ・ Masayasu Taki, Yasumasa Watanabe, and Yukio Yamamoto, Further Insight into the Development of ratiometric fluorescent probe for zinc ion based on indole fluorophore. *Tetrahedron Lett.*, 2009, 50, 1345–1347.
- ・ Tasuku Hirayama, Masayasu Taki, Atsushi Kodan, Hiroaki Kato, and Yukio Yamamoto, Selective labeling of tag-fused protein by tryptophan-sensitized luminescence of a terbium complex. *Chem. Comm.*, 2009, 3196–3198.

【学会発表】

- ・ Shohei Iyoshi, Masayasu Taki, and Yukio Yamamoto, Structure and Photophysical Properties of Fluorescent Metal Sensors Containing Thioether Ligand, *14th International Conference on Biological Inorganic Chemistry (ICBIC XIV)*, Nagoya, Japan, July, 2009.
- ・ Tasuku Hirayama, Masayasu Taki, and Yukio Yamamoto, Lanthanide Complex bearing Two Zinc Complexes for Artificial Peptide Tag Recognition, *14th International Conference on Biological Inorganic Chemistry (ICBIC XIV)*, Nagoya, Japan, July, 2009.
- ・ Masayasu Taki, Akio Ojida, Itaru Hamachi, and Yukio Yamamoto, Ratiometric Imaging of Cadmium Ion Using A Novel Fluorescent Sensor Based on 7-Amino-4-methylcoumarin, *14th International Conference on Biological Inorganic Chemistry (ICBIC XIV)*, Nagoya, Japan, July, 2009.
- ・ 水川友章・多喜正泰・山本行男、還元型フルオレセイン骨格を利用した銅一価イオン蛍光検出機構の解明、日本化学会第 90 春季年会、近畿大学、3 月・2010 年
- ・ 白川佳徳・多喜正泰・山本行男、蛍光性希土類錯体を用いた亜鉛センサーペプチドの開発、日本化学会第 90 春季年会、近畿大学、3 月・2010 年
- ・ 伊吉祥平・多喜正泰・山本行男、局所的亜鉛濃度変化の検出を指向した新規蛍光センサーの開発、日本化学会第 90 春季年会、近畿大学、3 月・2010 年
- ・ 旭史悦・多喜正泰・山本行男、フルオレセイン結合型環状配位子を用いたニッケル錯体の合成と性質、日本化学会第 90 春季年会、近畿大学、3 月・2010 年

2. 教育活動

【学内】

- ①全学共通教育：「基礎有機化学 A・B」「基礎化学実験」「生活と環境の化学」
- ②学部教育：「物質構造論」「課題演習：分子の構造と機能」「自然科学特別ゼミナール A・B」（以上、総合人間学部）
- ③大学院教育：「相関環境学研究 I・II」「分子生体相関論 1」「分子環境相関論演習 1・2」「分子・生命環境基礎論」（以上、人間・環境学研究科 博士前期課程）、「相関環境学特別研究 I・II」「分子環境相関論特別演習 1・2」「分子・生命環境論特別セミナー」（以上、人間・環境学研究科 博士後期課程）

3. その他の活動

【学内委員】

- ・ 高等教育研究開発推進機構長
- ・ 全学共通教育委員会
- ・ 全学共通教育システム委員会
- ・ 施設整備委員会
- ・ 京都大学図書館協議会
- ・ 附属図書館運営委員会
- ・ フィールド科学研究センター協議委員会

【その他】

- ・平成 21 年 8 月 1 日、教員免許状更新講習「実践的な化学実験の工夫」
- ・平成 21 年 8 月 3 日、ひらめき☆ときめきサイエンス「自分で合成して観察してみよう！光る分子」
- ・平成 21 年 9 月 2 日、兵庫県立西宮南高等学校特別授業

田地野 彰（教授）

1. 研究業績

【著書】

[共編著]

- ・Yoshida, T., Imai, H., Nakata, Y., Tajino, A., Takeuchi, O., and Tamai, K. (Eds.). 2009.10. *Researching Language Teaching and Learning: An Integration of Practice and Theory*. Oxford, UK: Peter Lang. pp. 1-396.

[監修]

- ・田地野彰・金丸敏幸・中川勝吾 2009.06. 『京大・学術語彙データベース 基本英単語 1110』京都大学英語学術語彙研究グループ+研究社、270 頁.

【論文】

- ・Tajino, A. 2009.10. “Understanding life in the language classroom: A systemic approach” In Yoshida, T. et al. *Researching Language Teaching and Learning: An Integration of Practice and Theory*. Oxford, UK: Peter Lang. pp. 115-130.
- ・Ohki M., Hori S., Nishiyama N. and Tajino A. 2009.10. “Les causes principales de la baisse de motivation chez les apprenants japonais de francais” *Revue japonaise de didactique du francais, Vol. 4, No. 1, Etudes didactiques*. pp. 71-88.
- ・金丸敏幸・田地野彰 2009.11. 「京都大学学術語彙データベースの構築—学術目的英語のための教材開発に向けて—」、『信学技報』（電子通信情報学会）第 109 巻、第 297 号、pp. 39-44.
- ・金丸敏幸・マスワナ紗矢子・笹尾洋介・田地野彰 2010.03. 「ムーブ分析に基づく英語論文表現データベースの開発—京都大学学術論文コーパスを用いて—」、『言語処理学会第 16 回年次大会論文集』、pp. 522-525.

【学会発表】

- ・田地野彰・金丸敏幸・寺内一 2009.09. 「学術研究の場としての大学英語教育」大学英語教育学会第 48 回全国大会、北海学園大学.
- ・Fujioka, M., Stewart, T., Dalsky, D., Maswana, S., Kanamaru, T. and Tajino, A. 2009.10. *JALT CUE 2009 Conference*. 帝塚山大学.
- ・金丸敏幸・田地野彰 2009.11. 「京都大学学術語彙データベースの開発—学術目的英語の教材開発に向けて—」 「思考と言語研究会—言語と学習、場の共創—」電子情報通信学会、早稲田大学.
- ・金丸敏幸・マスワナ紗矢子・笹尾洋介・田地野彰 2010.03. 「ムーブ分析に基づく英語論文表現データベースの開発—京都大学学術論文コーパスを用いて—」言語処理学会第 16 回年次大会、東京大学.

2. 教育活動（2008 年度）

【学内】

- ①全学共通教育 英語ⅠA・B、英語ⅡA・B
- ②学部教育 英語教育方法論（総合人間学部）
- ③大学院教育（博士前期課程）共生人間学Ⅰ・Ⅱ、教育言語学 2、外国語教育基礎論、外国語教育基礎論演習；（博士後期課程）共生人間学特別研究Ⅰ・Ⅱ、外国語教育論特別演習 1・2、外国語教育論特別セミナー（人間・環境学研究科）

【学外】

- ・京都府立大学 英語Ⅰ、英語Ⅱ、英語科教育法Ⅰ
- ・京都府立向陽高校（高大連携プロジェクト）

3. その他の活動

【学内委員】

- ・外国語教育専門委員会
- ・外国語教育専門委員会英語部会
- ・国立七大学外国語教育連絡協議会
- ・発明評価委員会

【学外委員（研究活動）】

- ・オーストラリア・マコーリ大学大学院言語学研究科・博士論文外部審査員 (Ph.D. External Examiner, Macquarie University, Australia).

【講演】

- ・田地野彰・金丸敏幸 2009.07. 「語彙とライティングー『京大・学術語彙データベース基本英単語 1110』を活用してー」京都大学大学院情報学研究科グローバル COE プログラム「知識循環社会のための情報学教育研究拠点」及び原初知識モデル教育研究コア「テクニカルライティングセミナー」
- ・金丸敏幸・田地野彰 2010.03. 「学士課程における英語語彙教育ー「京大学術語彙データベース」を活用してー」『第 16 回大学教育研究フォーラム』京都大学.
- ・田地野彰 2010.03. 「これからの大学英語教育ーEGAP 教育の充実に向けてー」獨協大学 全カリ FD 講演会（文部科学省「大学教育・学生支援推進事業大学教育推進プログラム（GP）支援事業」）招聘講演.

赤松 紀彦（教授）

1. 研究業績

【著書】

(共著)

- ・赤松紀彦、江田憲治ほか著 2010.3 『中国語の世界ー上海・2010』大地社

【論文】

- ・赤松紀彦、金文京、小松謙ほか 2009.8 「元刊雜劇の研究（六）「新編關目晋文公火燒介子推」全訳校注（前編）」『佐賀大学文化教育学部紀要』第 14 集第 1 号、1-21 頁
- ・赤松紀彦、金文京、小松謙ほか 2009.12 「元刊雜劇の研究（七）「李太白貶夜郎」全訳校注（後編）」『京都府立大学学術報告 人文』第 61 号、1-38 頁

2. 教育活動

【学内】

- ①全学共通教育：「中国語ⅠA・B」「中国語ⅡA・B」
- ②学部教育：「東アジア比較芸能論演習 A・B」「東アジア比較芸能論 A」「文化環境学入門 B」（総合人間学部）
- ③大学院教育：「共生人間学Ⅰ・Ⅱ」「東アジア比較芸能論 A」「地域文明論演習」（以上、人間・環境学研究科）

3. その他の活動

【学内委員】

- ・全学共通教育システム委員会
- ・全学共通教育実施委員会
- ・CALL システム運用委員会
- ・初修外国語群会代表

田中 真介 (准教授)

1. 研究業績

【著書】

- ・田中真介 2009.10. 「演劇の発達の意義」社会福祉法人大木会 (編) 『ロビンフッドたちの青春—ある知的障がい者施設・30年間の演劇実践記録—』中川書店、325-343頁.
- ・田中真介 2009.12. 「京都大学を休校にしなかった理由」ワクチントーク全国 (編) 『新型インフルエンザ』ジャパンマシニスト社、80-81頁.
- ・田中真介 (監修)・乳幼児保育研究会 (編著) 2010.2. 『発達がわかれば 子どもが見える』(第12版)、ぎょうせい.

【論文】

- ・田中真介 2009.5. 「演劇の発達の意義」幼年教育、157号、26-41頁.
- ・田中真介 2009.8 「医療被害に対する応用心理学の意義と役割」日本応用心理学会第76回大会発表論文集『大会企画シンポジウム「健康を支援する応用心理学」』、5頁.
- ・田中真介 2009.8. 「実践研究論文の特徴」日本応用心理学会第76回大会発表論文集、15頁.
- ・田中真介 2009.11. 「実践研究論文の特徴」応用心理学会研究、35巻1号、33-36頁.
- ・田中真介 2010.1. 「「新型インフルエンザ」に対する京都大学の対応」医薬ビジランスセンター (編) 薬のチェックは命のチェック、第37号、37-42頁.
- ・田中真介 2010.3. 「新潟県MR予防接種被害に係る医療費等の支給申請事案の審査請求に関する鑑定書」新潟県保健福祉部、1-15頁.

【学会発表】

- ・田中真介 2009.9. 「医療被害に対する応用心理学の意義と役割」日本応用心理学会第76回大会・大会企画シンポジウム『健康を支援する応用心理学』、九州大学.
- ・田中真介 2009.9. 「実践研究論文の特徴」日本応用心理学会第76回大会、学会編集委員会企画・研修セミナー、九州大学.

2. 教育活動 (2009年度)

【学内】

- ①全学共通教育: 「発達論 A/B」、「スポーツ指導法ゼミナール A/B」、「スポーツ実習 I A/I B」を担当。
- ②学部教育: 学生部及び保健管理センターで、学生・教職員を対象とする健康相談及びスポーツ指導・相談を担当。
- ③大学院教育: 人間・環境学研究科 (協力教員) 「共生人間学研究 I/II」、「認知・行動科学特別セミナー」、「認知・行動科学特別演習」、「認知・行動科学総合演習」、「行動制御学特別演習」、「行動発達論 2」、「行動制御学演習 4」を担当。

【学外】

- ・花園大学「生命科学 I/II」を担当。

3. その他の活動

【学内委員】

- ・教養教育専門委員会 B 群科目部会・D 群科目部会・少人数教育部会の各委員。

【社会活動】

- ・日本応用心理学会会員・常任理事。機関誌「応用心理学研究」編集委員会委員長、国際交流委員会委員、広報委員会委員。
- ・京都・鳥根ジフテリア予防接種被害事件研究会。

【講演】

- ・子ども総合研究所「子どもの発達基礎講座」
- ・おきなわ発達研究会「子どもの発達基礎講座—子どもたちの「言葉にならない言葉」をうけとめる—」

【その他】

- ・大学院人間・環境学研究科（協力教員）
- ・学生部スポーツ指導・相談室（専任相談員）
- ・保健管理センター（非常勤講師・専任相談員）

Dalsky David Jerome（准教授）

1. 研究業績

【著書】

- ・ Kyoto University Academic Vocabulary Research Group and *Kenkyusha*. (2009). *Kyoto University data-based academic vocabulary: Basic English words 1110*. Tokyo: Kenkyusha.

【論文】

- ・ Tajino, A., Dalsky, D., & Sasao, Y. (2009). Academic vocabulary reconsidered: An EAP curriculum-design perspective. *Journal of Teaching English as a Foreign Language and Literature*, 4, 3-21.

【学会発表】

- ・ Fujioka, M., Dalsky, D., Stewart, T., Maswana, S., Kanamaru, T. & Tajino, A. (2009, October). *General Writing and Academic Writing: Bridging the Gap*. College and University English Teachers 2009 Conference: Tezukayama University, Nara, Japan.

2. 教育活動

【学内】

- ・ 「英語ⅠA・B」「英語ⅡA・B」（Academic Writing and Academic Reading）

ティム スチュワート Tim Stewart（准教授）

1. 研究業績

【著書】

（単著）

- ・ Stewart, T. 2009.05. Introduction: The practice of teaching speaking in the 21st century. In T. Stewart (Ed.), *Insights on Teaching Speaking in TESOL* (pp. 1–10). Alexandria, Va., USA: TESOL Inc.
- ・ Stewart, T. 2009.05. (Re)cycling speaking tasks on the road to pedagogical renewal: Drama in the TESOL classroom. In T. Stewart (Ed.), *Insights on Teaching Speaking in TESOL* (pp. 107–119). Alexandria, Va., USA: TESOL Inc.

（共著）

- ・ Stewart, T. (Ed.). 2009.05. *Insights on Teaching Speaking in TESOL*. Alexandria, Va., USA: TESOL Inc.

【論文】

- ・ Stewart, T. 2009.11. Will the new English curriculum for 2013 work? *The Language Teacher* 33(11), 9–13.

【学会発表】

- ・ Fujioka, M., Dalsky, D., Stewart, T., Tajino, A., Maswana, S. & Kanamaru, T. 2009.10. “General writing and academic writing: Bridging the gap,” JALT College and University Educators, Nara, Japan.

2. 教育活動（2009年度）

【学内】

①全学共通教育、②学部教育、③大学院教育

【学外】

- ・ 2009.4–2010.3. Editor of the *TESOL Journal* section, Communities of Participation in TESOL
- ・ 2009.4–2010.3. Manuscript reviewer for the JALT publication *The Language Teacher*

- ・ 2009.4-2010.3. Manuscript reviewer for the TESOL publication *TESOL Quarterly*
- ・ 2009.12-2010.3. Wrote academic writing course book 「英作文を卒業して英語論文を書く」.
- ・ 2009.10-2009.11. Reviewed book for Cambridge University Press, J.C. Richards & T.S.C. Farrell. *Teaching Practice in Language Teaching: A Reflective Approach*

3. その他の活動

【学内委員】

- ・ 2009.4-2010.3. 京都大学入試委員会 外国語（英語）の活動
- ・ 2009.4-2010.2. 教員採用審査委員会 外国語（英語）教員の活動
- ・ 2009.6-2010.3. 国際交流委員会委員の活動

桂山 康司（准教授）

1. 研究業績

【著書】

【編集協力】

- ・ 京都大学英語学術語彙研究グループ+研究社 2009.6 『京大・学術語彙データベース基本英単語 1110』研究社、270 頁

【論文】

- ・ 桂山康司 2009.12 「「英語」における語彙教育と科学—二つの文化を超えて—」『京都大学高等教育研究』第 15 号、99-106 頁

【学会発表】

- ・ 桂山康司 2009.10 「目と耳のための言葉—ミルトンにおける詩的言語の一側面」日本ミルトン協会第 2 回研究大会、日本大学

2. 教育活動

【学内】

- ①全学共通教育：「英語ⅠA・B」「英語ⅡA・B」「イギリス詩入門（ポケット・ゼミ）」
- ②学部教育：「西欧近現代表象文化論ⅣB」「西欧近現代表象文化論演習ⅣA・B」（以上、総合人間学部）「英語学英文学（講読）」「アメリカ文学（講読）」（以上、文学部）
- ③大学院教育：「共生文明学Ⅰ・Ⅱ」「イギリス近現代文化論2B」「西欧文化論演習2B」（以上、人間・環境学研究科、博士前期課程）「共生文明学特別研究Ⅰ、Ⅱ」「歴史文化社会論特別セミナー」（以上、人間・環境学研究科、博士後期課程）

【学外】

- ・ 京都府立大学 英語 B

3. その他の活動

【学内委員】

- ・ 全学共通教育システム委員会外国語教育専門委員会委員
- ・ 外国語教育専門委員会英語部会委員
- ・ 建築委員会委員（人間・環境学研究科）
- ・ 人間・環境学フォーラム実施委員会委員（人間・環境学研究科）

【社会活動】

- ・ 日本ミルトン協会企画委員
- ・ 日本ホブキンズ協会関西西部会運営委員

- ・ 岸和田市青少年指導員 (2009-2010 年度)
- ・ 岸和田市立八木北小学校 PTA 環境福祉委員会委員長 (2009 年度)

【講演】

- ・ 桂山康司 2009.11 「外国語教育と文学—テキストとしての文学再考：京大における最近の英語教育改革を例として」平成 21 年度国立七大学外国語教育連絡協議会合同シンポジウム、京都大学

第三部門（情報メディア教育開発部門）

小山田耕二（教授）

1. 研究業績

【論文】

(査読付学術雑誌)

- ・ 田中哲平、坂本尚久、小山田耕二、“階層型応答曲面法”、日本シミュレーション学会論文誌、Vol. 2、No. 2、pp. 23-31、2009
- ・ 江原康生、田中拓也、曾根秀昭、小山田耕二、“グリッド環境を用いた大規模ボリュームデータの遠隔可視化処理の高速化”、電子情報通信学会論文誌、B、Vol. J92-B、No. 10、pp. 1611-1618、2009
- ・ 江原康生、櫻井健一、曾根秀昭、坂本尚久、小山田耕二、“粒子ベースボリュームレンダリング手法を用いた大規模ボリュームデータの効率的な遠隔可視化”、画像電子学会論文誌、Vol. 38、No. 5、pp. 753-761、2009
- ・ ZhongMing Ding, Takuma Kawamura, Naohisa Sakamoto, Koji Koyamada, “Particle-based Multiple Irregular Volume Rendering on CUDA”, Simulation Modelling Practice and Theory, [Online], 2009

【その他の著作物】

(解説)

- ・ 坂本尚久、小山田耕二、“可視化プログラミングの基礎 (2) 粒子ベースボリュームレンダリング”、計算工学会、Vol. 14、No. 1、pp. 40-46、2009
- ・ 坂本尚久、小山田耕二、“可視化プログラミングの基礎 (3) GPU を利用した粒子ベースボリュームレンダリングの高速化”、計算工学会、Vol. 14、No. 2、pp. 2062-2069、2009
- ・ 坂本尚久、小山田耕二、“可視化プログラミングの基礎 (4) タイルド表示装置を使った大規模分散ボリュームレンダリング”、計算工学会、Vol. 14、No. 3、pp. 2130-2137、2009
- ・ 小山田耕二、“アンサンブル平均による非構造格子向けボリュームレンダリング”、信頼性、Vol. 31、No. 4、pp. 262-269、2009

【学会発表】

(査読付国際会議)

- ・ Naohisa Sakamoto, Takuma Kawamura, Koji Koyamada, “Integration of Semi-transparent Polygons for Sorting-free Volume Rendering”, Poster Proceedings of IEEE Pacific Visualization Symposium 2010, pp. 5-6, 2010
- ・ Naohisa Sakamoto, Takuma Kawamura, Hiroshi Kuwano, Koji Koyamada, “Sorting-free Pre-Integrated Projected Tetrahedra”, Proceedings of the 2009 Workshop on Ultrascale Visualization 2009, pp. 11-18, 2009
- ・ Hiroshi Kuwano, Takuma Kawamura, Naohisa Sakamoto, Koji Koyamada, “A Collaborative Visualization System for Complex CFD Results on a Tiled Display Wall”, Proc. of 3rd International Workshop on Process Tomography, 2009
- ・ Akira Hayakawa, Takayuki Ito, Koji Koyamada, Naohisa Sakamoto, “An Efficient Rectangle Packing for Improving the Performance of HeiankyoView”, Proc. of NICOGRAPH International 2009, CD-ROM, 2009
- ・ Takuma Kawamura, Koji Koyamada, Naohisa Sakamoto, “Level-of-Detail Rendering of a Large-Scale Irregular Volume Dataset Using Particles”, Proc. of 2009 Workshop on Visualization Applications, 2009
- ・ Teppei Tanaka, Akira Yamasaki, Koji Koyamada, Naohisa Sakamoto, “Interactive Hierarchical RSM Applied to Parameter Optimization of Photonic Crystal Nanocavities”, Proc. of 13th International Symposium on Consumer Electronics, 2009

- ・ Shiori Yasuoka, Naohisa Sakamoto, Koji Koyamada, “Spatio-Temporal Analysis of Time-Varying Multivariate Volume Dataset Using Volumetric Parallel Coordinates”, Asia Simulation Conference 2009 (Poster), 2009 Best Poster Award
- ・ Jun Nishimura, Hiroshi Kuwano, Takuma Kawamura, Naohisa Sakamoto, Koji Koyamada, “Visualization of Adaptive Mesh Refinement Data Using Particle-based Volume Rendering”, Asia Simulation Conference 2009 (Poster), 2009
- ・ Takuma Kawamura, Naohisa Sakamoto, Koji Koyamada, “A Streamline Visualization Technique for Sub-volume Based CFD Results”, Asia Simulation Conference 2009 (Poster), 2009
- ・ Takuma Kawamura, Naohisa Sakamoto, Koji Koyamada, “A High Quality Sampling Technique for Particle-based Volume Rendering”, IEEE Visualization’09 (Poster), 2009

(全国大会・研究会)

- ・ 河村拓馬、坂本尚久、小山田耕二、“粒子ベースボリュームレンダリングのための線形勾配サンプリング法”、第28回日本シミュレーション学会大会、2009
- ・ 桑野浩、河村拓馬、坂本尚久、小山田耕二、“大規模データの高解像度ボリュームレンダリングに対する粒子モデリング”、第38回可視化情報シンポジウム、2009

2. 教育活動 (2009 年度)

【学内】

①全学共通教育

- ・ 研究の世界 A
- ・ 研究の世界 B
- ・ 可視化入門

②学部教育

- ・ 生体医療工学
- ・ 基礎情報処理

③大学院教育

- ・ 情報メディア工学特論
- ・ 計算機科学特論

【学外】

- ・ 上智大学「ビジュアライゼーション」

3. その他の活動

【学内委員】

- ・ 高等教育研究開発推進機構執行協議会委員
- ・ 情報教育専門委員会委員
- ・ FD 研究検討委員会委員
- ・ 大型計算機システム運用委員会委員
- ・ 全学情報ネットワーク倫理委員会委員

【社会活動】

- ・ 日本シミュレーション学会会長補佐
- ・ 可視化情報学会理事・編集委員会委員長
- ・ システム制御情報学会理事

坂本 尚久 (特定助教)

1. 研究業績

【論文】

(査読付学術雑誌)

- ・ 田中哲平、坂本尚久、小山田耕二、“階層型応答曲面法”、日本シミュレーション学会論文誌、Vol. 2、No. 2、pp. 23-31、2009
- ・ 江原康生、櫻井健一、曾根秀昭、坂本尚久、小山田耕二、“粒子ベースボリュームレンダリング手法を用いた大規模ボリュームデータの効率的な遠隔可視化”、画像電子学会論文誌、Vol. 38、No. 5、pp. 753-761、2009
- ・ ZhongMing Ding, Takuma Kawamura, Naohisa Sakamoto, Koji Koyamada, “Particle-based Multiple Irregular Volume Rendering on CUDA”, Simulation Modelling Practice and Theory, [Online], 2009

【その他の著作物】

(解説)

- ・ 坂本尚久、小山田耕二、“可視化プログラミングの基礎 (2) 粒子ベースボリュームレンダリング”、計算工学会、Vol. 14、No. 1、pp. 40-46、2009
- ・ 坂本尚久、小山田耕二、“可視化プログラミングの基礎 (3) GPU を利用した粒子ベースボリュームレンダリングの高速化”、計算工学会、Vol. 14、No. 2、pp. 2062-2069、2009
- ・ 坂本尚久、小山田耕二、“可視化プログラミングの基礎 (4) タイルド表示装置を使った大規模分散ボリュームレンダリング”、計算工学会、Vol. 14、No. 3、pp. 2130-2137、2009

【学会発表】

(査読付国際会議)

- ・ Naohisa Sakamoto, Takuma Kawamura, Koji Koyamada, “Integration of Semi-transparent Polygons for Sorting-free Volume Rendering”, Poster Proceedings of IEEE Pacific Visualization Symposium 2010, pp. 5-6, 2010
- ・ Naohisa Sakamoto, Takuma Kawamura, Hiroshi Kuwano, Koji Koyamada, “Sorting-free Pre-Integrated Projected Tetrahedra”, Proceedings of the 2009 Workshop on Ultrascale Visualization 2009, pp. 11-18, 2009
- ・ Hiroshi Kuwano, Takuma Kawamura, Naohisa Sakamoto, Koji Koyamada, “A Collaborative Visualization System for Complex CFD Results on a Tiled Display Wall”, Proc. of 3rd International Workshop on Process Tomography, 2009
- ・ Akira Hayakawa, Takayuki Ito, Koji Koyamada, Naohisa Sakamoto, “An Efficient Rectangle Packing for Improving the Performance of HeiankyoView”, Proc. of NICOGRAPH International 2009, CD-ROM, 2009
- ・ Takuma Kawamura, Koji Koyamada, Naohisa Sakamoto, “Level-of-Detail Rendering of a Large-Scale Irregular Volume Dataset Using Particles”, Proc. of 2009 Workshop on Visualization Applications, 2009
- ・ Teppei Tanaka, Akira Yamasaki, Koji Koyamada, Naohisa Sakamoto, “Interactive Hierarchical RSM Applied to Parameter Optimization of Photonic Crystal Nanocavities”, Proc. of 13th International Symposium on Consumer Electronics, 2009
- ・ Shiori Yasuoka, Naohisa Sakamoto, Koji Koyamada, “Spatio-Temporal Analysis of Time-Varying Multivariate Volume Dataset Using Volumetric Parallel Coordinates”, Asia Simulation Conference 2009 (Poster), 2009 Best Poster Award
- ・ Jun Nishimura, Hiroshi Kuwano, Takuma Kawamura, Naohisa Sakamoto, Koji Koyamada, “Visualization of Adaptive Mesh Refinement Data Using Particle-based Volume Rendering”, Asia Simulation Conference 2009 (Poster), 2009
- ・ Takuma Kawamura, Naohisa Sakamoto, Koji Koyamada, “A Streamline Visualization Technique for Sub-volume Based CFD Results”, Asia Simulation Conference 2009 (Poster), 2009
- ・ Takuma Kawamura, Naohisa Sakamoto, Koji Koyamada, “A High Quality Sampling Technique for Particle-based Volume Rendering”, IEEE Visualization '09 (Poster), 2009

(全国大会・研究会)

- ・ 河村拓馬、坂本尚久、小山田耕二、“粒子ベースボリュームレンダリングのための線形勾配サンプリング法”、第28回日本シミュレーション学会大会、2009
- ・ 桑野浩、河村拓馬、坂本尚久、小山田耕二、“大規模データの高解像度ボリュームレンダリングに対する粒子モデ

リング”、第38回可視化情報シンポジウム、2009

3. その他の活動

【社会活動】

・国際会議 Asian Simulation Conference 2009, Program Chair